

献奏の外箏、笛、劍扇舞その他の奉納演奏がある。自由参拜(主催日本民主同志会)

○京都白峯神宮(祭神崇徳、淳仁兩帝)
春の祭典 四月十四日(午後一時、京都琵琶協会から各流派数氏献奏の外日本舞踊その他奉納。参拜自由。)

○正絃会演奏会 四月二十日(日)午後一時
時東京港区芝「菜根」

よもやま (敬称略)

○正絃会二月演奏会 二月十六日午後一時
一時東京芝愛宕菜根(主催薩摩琵琶正絃会)

春の調一池野谷吟曲、広瀬中佐一田辺錦波
乃木將軍一輕部岳瑞、松崎一生田鶴王、王昭君一鈴木鶴岡、鉢の木上ー遠藤鶴東、迷語もどきー辻靖剛、俊寛上ー吉成登城、川中島上ー柏木篁道、物狂一浜野錦宝、風林火山一曾我竜城、葉児一仲川秀邦、城山一鈴木鶴謳、小教盛二段一古家絃風、新曲会津開城一森鶴堂、異国の丘一太和田鶴道、滝口入道一関口龍城、恋の山一太村鼓城、補狭間一三木絃櫻、彰義隊一栗原雨竹、古曲合奏一有志

○研精会演奏会 二月二十三日正午
京新宿朝日生命ホール(主催同会) 御祝儀壽三番雙一水藤錦櫻、都錦穂、仲川秀邦、吾妻江風、補狭間一若林杏雨、菅公一神戸

洲正、黒田武士一水藤五郎、若き教盛一長谷川旭苑、吹雪の敵一輝錦司、新撰組一都錦穂、勳進帳一石田脩水、鶴ヶ崎一藤巻旭、彰義隊一仲川秀邦、舟弁慶一古田耕水、高田馬場一吾妻江風、うづは猿一水藤錦櫻

○埼玉県邦楽邦舞大会 三月八日
前十時埼玉会館(主催県教育委員会・県文化団体連合会、後援埼玉県) 琵琶名月逢坂山(鈴木密水)の外三曲初齋(生田会五十六人の大合奏)を初め五、長唄元禄花見踊(泉長唄連合会六十八人の大合奏)を初め二、仕舞謡曲二(埼玉宝生会十人)、舞踊藤娘(光藤会八人)、清元一、常盤津一

○筑前琵琶紅会演奏会 三月十四日
正午東京新宿伊勢丹ホール(主催同会) くない一會員一同、孤軍奮闘一相田元子、田中旭千栄、羅生門一佐久間旭連、岡田旭、安江旭治、高野旭美美、橋中佐一樹本

旭波・絃原島旭粧、回天義拳一岸旭秀・絃押田旭羽、綱館一大津旭紅、青山旭光、宮川旭花都、絃藤巻旭鴻、伏見の里一吾妻江風、大物の浦一原島旭粧、戻り橋一田中旭千栄、屋島の誓一原旭潮、絃吾妻江風、若き教盛一仲川旭朋、絃押田旭羽、吉野懐古、高千穂旭楓、絃原島旭粧、原田旭柳、立方藤間啓之丞、舞曲不二一立方藤間勘梨花外五、琵琶旭潮、旭粧、旭羽、旭生、旭米、旭朋、大石統一押田旭羽、盛岡陣一水藤錦櫻、十騎隊一山崎旭琴、乃木大将一若松悠、義経之流一原田旭柳、絃吾妻江風、外に詩吟一

永い冬が終って漸く春四月が訪れた、さあこれから琵琶界の本格的活動期である。●三月号「あとがき」で京絃が来る六月号を以て創刊十五周年を迎えたと書いたところ、予期せぬ大きな反響があった。編集子に感謝感激せしめた。ある中学校に教鞭をとられる琵琶人の先生は京絃掲載記事の一部を教材の補いにしているというお便りを下さった。また高等学校の先生をしていただける琵琶人某氏からは毎号の京絃を綴って学校の図書室に備えつけ生徒に自由閲覧させているとお手紙を頂いた。●京絃は琵琶文化向上の一助に資すべく絶えず内容記事に気を配り之に対する感謝の御手紙は従来から度々頂戴しているが今回も一人の有名琵琶人から同主旨の町重な賛辞を貰った、たとえ僅かの方からにせよこういう御通信に接する事は編集子にとっては光栄至極で心から喜ぶと同時に一層の奮起を痛感し何として皆様の御期待に副わねばと覚悟を新たにしている次才●希くは京絃創刊十五周年の御祝詞を皆様から頂戴して六月号に掲載し錦上花を飾らせ頂きたい。どうぞ宣教

昭和四十四年四月一日発行(非売品)
編集者 植村 寛水
発行所 京 絃 社
京都市北区衣笠西馬場町二九
和田一ビル 一〇一號
電話(462)八三二六 (461)二八七六番
内線 二〇一 番

琵琶 機関紙

京

絃

才一七八号

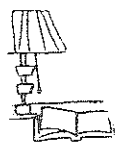
京 絃 社

狂醉亭漫録号外特集

NHKのTV「天と地と」偶感(中)

謙信と信玄の一騎討ちは ほんとなのでしようか

森 中 義 一



「天と地と」の謙信単騎討入りの描写は、さすがに高名の作家だけに迫真の筆致です。勿論海音寺氏は一騎討入論者です。「天と地と」下巻「あとがき」において二つの肯定理由を示しておられます。その一つは

「現代の歴史家の中には、川中島合戦で、謙信が信玄の本陣に斬り込んだ事を否定する人がいますが、僕は斬り込んだに違いないと心から信じています(中略)。始めは八千対八千で衝突していますが、時が移れば一万二千の敵の隊が馳せつけて来る事がわかっていきますから(中略)敵の本陣に斬り込んで、今のうちに之を撃破する以外には活路がなかった(後略)」

要するに海音寺氏の説は、この戦況の段階においては、謙信は本陣に斬りこまざるを得ない、という事です。

しかしそうせざるを得ない事と、そうしたという事は違います。

堂と全軍に表示して居りました。旗の振り方や隊員の吹き方など信号による命令の下達に司令部から発せられている事がわかるため、前線から司令部に用事のある時に、司令部の位置が直ちに判明するためにも、司令部の位置の表識は必要欠くべからざるもので

す。武田軍では有名な「諏訪法性」の職がこれです。中五〇センチ、長さ四米三〇。赤の絹に金粉で「南無諏訪南宮法性上下大明神」と書いてあって、どこからでも見える大旗です。前線の主力の所在を司令部に知らせるためには、疾如風、徐如林、侵掠如火、不動如山の孫子の句を紺地に金泥で二行に書いた同じような大きな旗を立てられます。これが例の「風林火山」と言われるもので、司令部は前線の動静を知ることが出来ます。

信玄の司令部には八陣の備えと称する防備態勢を布き、相当な人数の親衛隊が前後左右を厳重に取囲んでいます。すべての味方陣から、司令部がよく見えると同様、敵からも見

えるのですから、嚴重ならざるを得ないワケです。その様なドまん中へ特殊ないでたちの騎馬武者が只一騎で突入し、自軍の大將の身辺まで乗込んで来られるでしょうか、考えられないことだと思えます。

海音寺氏のモウ一ツの理由は関白近衛前久から謙信への手紙で、「謙信伝」にその手紙の文句がのっています。

「大利を得られ八千余を打ち捕られ候事、珍重大慶に候、珍しからざる儀に候と端も自身大刀討に及ばれし段比類なき次才、天下の名譽に候」

前久は謙信に頼ることがあって前番に来ていた時に出した手紙で自分で戦争を見てたのも、調査したのでもないのです。

謙信が川中島を渡って退却したのに勝利というんですから「無」を「有」というぐらゐはヘッチャラでしょう。金魚と鱈とお公卿さんはキレイだが喰えんもんで、頼る身の頼られる者に出したペンチャラ手紙に過ぎないものです。

以上が海音寺氏の二つの理由と私のその反対意見ですが、その外に私が不思議に思っている事が一つあります。それは上杉家には、「謙信の事蹟をいとも勿体なしとし、苟も云為すれば神罰を蒙る」という云い伝えがあった、幕府に提出した「五戦記」も、如何にも四十年前から記録があったかのようにしたものです。噂が先に立って、今さらありのま

すが書けなかつたために、神罰を引っぱり出したと推測します。しかし一幅の絵巻物としては、是非必要な場面であることに間違いありません。それにもし一騎討ちがなければ海音寺氏も「天と地と」を執筆せられなかつたと思います。

ただ真偽は別であるという事です。世の中の人気と言うものは妙なもので、義信はすこぶる好評ですが、信玄は悪評です。謙信は一生独身、側室ゼロですが、信玄は姪まで側室にしています。信長秀吉家康でも似たりよったりで、女性関係では修身の教科書に載るような事は一つもしていません。それなのに信玄だけが好色チャンピオンの様に言われています。実父信虎をおろぼり出した事でも、親不孝の代表の様に言われていますが、二十一歳の若僧が四十八歳の頑強なおやじを、自分だけの都合で追出す事が出来るでしょう。か。将兵もより百姓僧侶まで、信虎追放を祝したと言っているから、信玄がクーデターをやられたと見るべきでしょう。

信玄が何故こんな悪評になったか解りませんが、川中島合戦から十二年目に信玄死去。それから二年目に長篠の合戦で勝頼が徹底的に敗北、天目山で自刃し、これで武田は滅亡しましたから、いくら武田の悪口を言っても文句を言ってくる所はありませんが、上杉の方はそうはいきません。(未完)

「平家物語」の物語 (二四)

維盛入水 (じすい)



中將、しかるべき善智識かなと思し召し、忍ちに妄念をひるがへして、高声に念仏百反(べん)ばかりとなへつつ、南無と唱ふる声とも海へぞ入り給ひける。

敗残の平維盛主従と滝口入道は、熊野の山深く分けて入る。熊野川沿いを行くにも、十津川べりを歩くにしても山道は長く峻しい。幾篠もの滝に合い、数知れぬ山を越さねばならぬ。熊野という地名は「立てこもった原野」というのだそう。名の通り重量たる山地である。木の根に足をとられ、ころびつまる。つらい足をひく維盛の一行、これがつい先日まで権勢を誇った平家嫡流の公達の姿とは。かつて維盛の祖父平清盛は、幾度か熊野を訪れている。この地に根を張る熊野水軍と、熊野三山を根拠とした山伏修験者を握るためである。父重盛も熊野への道を往來した。重盛は信心厚き人柄。有名な「忠ならんと欲すれば孝ならず」の願文を熊野の本宮で披露したこともある。その同じ道を三代目維盛は落人として人目をしのぶ逃避行である。数百年の綺羅びやかな供揃いで練り歩いた祖父、父とは打ってかわり、語り掛けるものは山の風

ばかり。

熊野本宮大社は、本宮、新宮、那智三社の首位にある社である。明治二十二年風水害で社務所、文庫が浸水しこの場所に移転したが熊野造りの本殿は昔のまま、威厳のあるたぐずまいである。早朝、深い森は静まりかえり、鳥の羽ばたきがしきり。鳥は神の使い、鳥の絵模様を音無紙(おとなしがみ)に木版で刷った熊野音紙は昔から珍重され、約束ごとを音紙に認ため絵模様の鳥一羽を切取って飲みこめばもうウソはつけない。若し違約すれば熊野の鳥が一羽死に、違約した人も血を吐いて死ぬという。

熊野本宮の茶畑でつんだという、高い香りが四辺に漂う新茶を頂いて、官司は「熊野落ちして来た維盛の心境は無復雜なものがあったでしょう。恐らくは郷愁と期待の二つの面を往きつ戻りつしたのでは」と推測する。平家は代々熊野と信仰によって固く結ばれていた。だから維盛は「死ぬなら此世の浄土先祖崇敬の地熊野で」と郷愁を感じていた。同時「熊野に行けば死なば或はかくまわれて呉れるかも」と果敢ない期待を持っていたのではあるまいか。

だが熊野は源氏の血筋。信仰か血か長い日和見の末源平になぞらえた鶏を戦わせ、その結果により加担する方を決めることにした。闘鶏の結果は偶然か策略か、兎に角時勢にも合った結果が出た。捕えられ源氏に突出されることこそなかったが、誰も維盛をかくま

てはくれなかつた。「その失望感、それも維盛の死を早めた原因の一つ。」官司の話は悲しみにみちていた。

寿永三年三月二十八日、浜の宮から船を出した維盛主従は山なりの島に着いた。「三位中将維盛法名浄園二十七才、那智の沖にて入水す」最後の言葉を松の木を削って書きつけた。滝口入道に「生者必滅」の理りを説かれ、南無と高々に唱えて腹臣の重景、石童丸等と共に海に飛びこむ。その日の海面には遙かに春霞が立ちこめ、暮れ行く空の色がもの悲しかった、と伝えられている。

熊野には今も平家の公達の言葉が残っている。ものを頼む時に「たも」の語尾がつく。熊野、那智の山あいにある色川部落では「維盛はこの色川村で末長く隠れ住んだ」という云い伝えが残されている。多分維盛の死を哀れと思う熊野の人達の作り話だろうが。

切抜帳から (三二八)

平井春嶺

九、終戦に対する八月九日の御前会議の状況と、大御心の有難さ(4)

後に残り一同協議いたしました。陛下のお思召しに従い、ポツダム宣言を受諾する方法によって戦争を終結することとし、唯一つ米国側に対して「このポツダム宣言の諸条項の中には、天皇の國家統治の大権を変更する要

求はこれを含まないものと諒解するが、その点について明確なる返事をして欲しい」という留保をつけて「ポツダム宣言を受諾する用意がある」旨を中立国を通して、連合国に通告致すことにしたのであります。即ち國體護持を唯一の条件として、終戦を決定したのであります。

私(追水久常氏以下同じ)はつくづく思います。今度の戦争は日本としては普通道徳の立場に於ては或は已むを得ず起さざるを得ない立場であったかもしれせん。併し御前會議の陛下の御言葉に徴しても、軍当局は陛下に対し実状をありのままに申し上げていたのではありませんでした。お言葉は鋭いものではありませんでした。お言葉を拝して軍当局に対する陛下のお怒りを感じたような気が致します。しかも軍当局は日本民族発展のための戦争を、結局日本民族総玉碎即ち日本民族滅亡のための戦争を継続せんとしたのであります。或は普通道徳の正義の立場からは一応考えられるかも知れませんが、陛下が日本人のみならず、世界全人類の平和と幸福のために、自分のことはどうなってもよいというお考えで、この聖断を賜りましたことは何とも有難いこととあります。

私は親鸞の教のこととはよく存じませんが、唯常識として阿彌陀様は「衆生を済度することが出来なければ仏にはならぬ」という誓願を立てられて、ただひたすらに、衆生済度の本願に生きて居られるのだということを聞いて

ておりました。阿彌陀様にこの本願あるが故にこれを信ずることにより、衆生はその他力によって済度されるのだというのであります。私は陛下のお姿を拝しお言葉を伺っている中に、陛下が御自分のことはどうなっても構わない、日本人が一人でも多く生き残って否、世界全人類が幸福になるようにというお心持を拝しましたときに、彌陀の本願というものはこういうものではなからうかと考えました。陛下のお姿には後光がさしていたと申す外

予 とき 四月十一日(金)夕五時 ところ 東京日本橋 才一証券ホール 藤波桜華演奏会 主催 藤波桜華後援会 後援 錦びわ宗家 (錦びわの外他流名士出演)

はありません。もし絵に写すのならその尊い有難いお姿は後光を書きそえて表わす外はないであります。私は陛下におすがりすることによって、そのお力によって救われると思いました。私は國家伝統の御恩を斯くも身近に具体的に拝した一身の幸福を思っているのであります。國家伝統に対する報恩、私にとつては、ほんとうに心からこれを一生立てつらぬくことを誓って居るので御座います。(次回は八月十四日の御前會議の経過と天皇陛下の御仁慈

古代史に於ける 日本建国の謎 (三)

弓削仁正

九州へ上陸した辰王 緒、ここで視野を幾分変え、日本の神話に 投影されている建国物語から之を演説してみ たいと思ふ。古事記や日本書記等の神話をよ く調べてみると、この神話は「神権国家説」 の建て前を取り、日本は神意により特定の人間に 国家を統治せしめることを繰返し物語っている。

というのは、この古事記や日本書記は西暦 七十二年(和銅四年)に元明天皇の命により 太安万侶が舎人碑田阿礼の記憶を元に帰化人 を使って編纂したもので、云うなれば時の主 権者である天皇一族の監督下に、御用学者を 集めて天皇神権説を中心に、大和朝廷に都合 のよいように書かれた官製記録である。

処でこの官製神話によると、ニギノミコト が天孫降臨と称して筑紫の日向の高千穂の 峰に天降っている。いかに昔でも雲の中から 人間が降下する筈はなく、これには隠された 別の事実があるのである。現在私達は京都から 東京へ行くことを「上り」と云い、その反対を 「下り」と呼んでいる。つまり首都から 他へ行くことを「下り」と云うのであって、

ニギノミコトが筑紫へ「下って来た」とい うのは、天から下界へ降って来たのではなく、 何処かの首都から九州へ「下って来た」ので ある。何処の首都であろうか。 扱てここで二、三世紀時代の南鮮の状態を 眺めると、辰韓(後の新羅)馬韓(後の百濟) 弁韓(後の任那日本府)が、北鮮の高句麗の 侵入に脅やかされて一種の動乱期に入り、弁 韓を支配していた辰王なる大王が、此時機に 消息を絶っている。しかも辰王が都としてい

予 告 日時 六月一日(日)正午開演 会場 安井金比羅宮(宮会館) 京都市東山区東大路 通松原北入 各流派合同演奏会 主催 京都琵琶協会 主賓 錦心流 前 来賓 出演 静岡 京都 大阪の名手 (入場 無料)

神話ではこの外来民族を「天津神」と呼び 原住民族の倭人を「国津神」と呼んでいる。国 津神は優秀な武器を持つ天津神に征服され、 彼等を「天孫民族」と呼んだ。「書記」の一 書に天照大神はその生み給える市杵島姫命、 田心姫命、瑞穂姫命の三女神に「汝等三女神 は道中の天孫を譲れ」と云って、この三人の 娘を南鮮と筑紫の間の、いわゆる道中に降し たとなつてゐる。つまり天孫降臨なるものが 実は南鮮と筑紫の道中で、この三女神は玄海 灘の沖ノ島、大島宗像に現在祭られている宗 像三社の縁起となつてゐる。

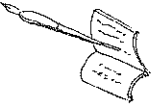
大和朝廷 では、この天降ったニギノミコトとは誰 のことであろうか。「記紀」や「帝紀」の何 天皇か。時代考証から云うと、ニギノミコト は才十代崇神天皇である。ではニギノミコト の孫にあたる「神武天皇」は、どの天皇 になるのであろうか。

再び古事記の神話に戻り、ニギノミコト (実は崇神天皇)が日向の高千穂の峰に天降 った時「この地は韓国(からくに)に向い笠 沙御前(かささみさき)に真来通りて朝日の さす国、夕日の照る国なり、故に此地ぞ甚吉 (いとよき)地と語りたまひて坐しき」とあ って、ここでも韓国即ち南鮮のことに特に言 及され、そこを天津神の故郷と解すれば文意 はおのずから通じるのである。尚日向の高千 穂の峰のことであるが、ここでいう日向とは 「日向向う」意味の表現で、殊に「記紀」に

続・琵琶界物語 (十八)

私の企画した琵琶発展策

清水史水



は態々「筑紫の日向」という言葉を入れ、飽 く迄南鮮からの最短距離の北九州のことで、 現在の地図で云う日向の高千穂には何の関係 もない。(未完)

大正十五年夏、筆者が末だ独身で静岡の下 宿生活時代に、郷里から今は亡き母が訪ねて 来たので、親孝行の意味で遊覧地にでも案内 しようと考えていると、たまたま土地の新聞 社が主催して清水港から直行船で伊豆の土肥 温泉遊覧旅行会社が計画されたので、これに琵琶 携行で母を連れて参加し、遊覧船のデッキで 駿河湾をめぐり霊峰富士、之に連なる足曳 山や紺碧の海岸に浮かぶ三保の松原の風光など に見惚れている処へ主催の役員が近づいて 来て「琵琶の先生、今日この旅行会員約三百 人が土肥温泉旅館で昼食をしますが、その席 で一曲演奏して下さいませんか」と所望され、土地柄 「橋大隊長」を弾奏した。これが縁で、 旅館側でも滞在客にも聴かせて欲しいという 事、翌日再び浴客の集まる宿の広間で一曲演奏 したが、県会議員の此宿の主人が、その翌 晩役場の後援で近くの寺院に於て、同地出身 の戦死者慰霊琵琶会を企画され、三日ほど滞

在して母と共に帰郷した。 それから十数日後、静岡新報に伊豆古奈温泉 泉で郷土戦死者が一名報道されたので、同役 場宛に慰霊琵琶会を奉仕したいと申込んだ処、 折返し古奈小学校講堂を会場に当て開催した という返事が来たので筆者に小川野水氏が 同道した。当夜は主催者側の講演に続いて野 水氏の「別れの国歌」筆者の「橋大隊長」の 演出で満員の盛況を呈し、その夜は兵事主任 や郷軍分会長が経営する温泉旅館に止宿したが、 夕食時に一献を交しながら郷軍分会長は 「実はお手紙を拝見して考えている処へ農事 巡回指導員が遣入って来て、清水史水氏なら 過日土肥温泉の寺院で同氏の琵琶を聴いて非 常に感銘したから是非頼んだ方が良く」と云う のでお願いする事にしました」との話であつ た。そうして贈られた金一封や往復旅費など 一切を同町公共事業費に寄附し、翌朝戦死者 宅を弔問して帰宅した。

高島主事の講演と筆者の琵琶「新曲安倍川の 義夫」を中心に、同流多数出演の元に開催し 盛況裡に終つて、その純益金二十三円也を教育 会に献金したが、当局はこの企画に対し大 変満足の色を表された。 それから数日を経た或日、高島主事から琵琶 「安倍川の義夫」の批判会をやるから来演 して欲しい、との電話があり、指定日に教育 会館別室で試演した。列席者は作詞者、筆者 教育課長、同主事、旧制中学の校長など教育 関係者約十人で、演者の言語発音不明瞭の点を 辛辣に批判され、又作詞の字句の難解等が 指摘された。当時若輩の筆者は甚だ憤慨したが、この事が大変修業になり今日ではこの忠 言を感謝している。

昭和六年、静岡県教育会主催で、当時小学 五年の教科書に載っていた「美談安倍川の義 夫」建碑募金運動要項が静岡新報で報道され たので、高島教育主事を訪ねて、琵琶会を開 催してその利益金を募金に充てたら、と申入 れた処、図らずも氏は「こんな新作琵琶歌詞 が出来たが、」と県史編纂主事の故足立敏 太郎氏作「安倍川の義夫」を提出されて、得 たりと許り作曲にかかり同年三月二十一日県 教育会館を無償で借受け、筆者主催で「安倍 川の義夫建碑募金流琵琶演奏会」を、

前述の募金運動は主として静岡、和歌山両 県下小学校全児童の献金によって大成功の裏 蹟を治め同年六月二十一日静岡市の西郊安倍 川畔に建設竣工、代表の可愛らしい小学生の 手で殿簾裡に除幕式が終り、午後から城内小 学校講堂で記念大講演会が開かれて、東京から 故徳富蘇峯先生、興津清見寺の故古川大航 老師、静岡県知事等の講演と、「安倍川の義

夫」を、

夫」歌詞数千枚が来会者に配られて筆者が之を演奏し、超満員の大盛況裡に意義深き記念大会の幕を閉じたが、各新聞は此状況を挙げて大々的に報道した。(未完)

福井丸船室の油絵

広瀬中佐の温情 辻 旭 城



日露戦争でロシアの東洋艦隊を封じ込めた日本海軍の旅順港閉塞決死隊に二度参加し、壮烈な戦死を遂げた軍神広瀬武夫中佐を祭る広瀬神社が、中佐出生地の大分県竹田にある。明治三十七年三月二十七日未明、才二次の閉塞船福井丸を、目ざす旅順港口に沈めてボートで退船するとき、杉野兵曹長の姿がみえないのに気づいた広瀬中佐は、沈みゆく船内を三度探し求め、ようやくあきらめてボートに飛び乗ろうとした瞬間、敵弾に当たって散華した。

その武人としてのりっぱな態度と、部下を思い愛情は汎く賞讃され、後に琵琶歌にもなつて全国津々浦々で演奏された。

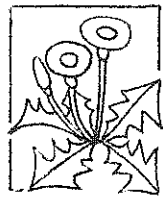
この中佐のやさしい人柄を秘めた一枚の油絵がいまも広瀬神社に保管されている。縦三十七センチ、横四十六センチほどの小さなこの油絵は、金塗りで四隅の丸いのがちりした額縁に納まっている。絵はすっかり黒ずんでいるが、外国のどかな田園風景を描いたのも

ので、元は美しい色彩だったに違いない。絵の裏にはつぎのように書きつけられている。明治三十七年二月才二回旅順口閉塞隊福井丸を海軍決死隊に引渡し退船の時、同船キャビンに飾りありたるこの油絵を、指揮官広瀬中佐より記念のため授与せられたるものなり。当時福井丸機長石田汀。

これについて広瀬神社司広瀬末人氏(実兄勝比海軍少将の養子)は言っていた。福井丸は英国で建造されたものらしく、問題の油絵は造船会社が記念のために贈ってくれたものと思われる。中佐は引き渡しの際この絵をみつつけ、船と運命を共にするのを惜しみ、最後に立ち会った石田機長に、長い間乗ってなじめぶかい船が沈められるのは君にとってつらいことだろう、思い出したときにはこの絵をながめて、なぐさめてほしい。といつて渡したものだと思ふ。

さて、当時の額縁のままこの油絵が広瀬神社に奉納されたのは、敗戦前の昭和二十年三月、大分市上市町に住んでいた陸軍中尉草本利恒氏であった。草本氏の話しによると「あの絵は石田氏の未亡人が手放したあと、僕の母校大分県臼杵商業学校の小崎胤幸教頭に渡った。絵が好きで集めていた僕は、ぜひに頼み昭和十年頃譲って貰った。今フランスにいる佐藤敬画伯に戦時中みせたことがあるが、中佐の心情に感激するとともに絵自体も立派だとほめてくれた」ともらしてくれた。更に奉納のいきさつを商工会議所で聞いた

予 告 日時 六月八日(日)正午開演 場所 大阪市立婦人会館 大阪市天王寺区六ノ七三 創立二十周年記念 薩摩琵琶演奏大会 主催 薩摩琵琶四明会 札幌、東京、横浜、浜松、名古屋、京阪神、鹿児島の名士多数来演 (入場 無料)



とき「終戦の年の三月、才三回目の召集を受けて出発する前日、ふとあの絵のことを思い出した。空襲で焼いてはならないと考へ、急に泉庁の役人に托して奉納したものだ。この直後、大分市は才一回の空襲を受け、僕の家も焼けてしまった。中佐の心が同じく軍人として出発の際の僕にかよったのは、妙な因縁だろうと思っている」と述懐して筆者に話してくれたのが今に頭に残っている。

歌人故九条武子をしのぶ会

見渡せば西も東も霞むなり君は帰らじ又春や来し一世を風靡した大正の女流歌人故九条武子さんをしのぶ会が二月四日京都本願寺会館で開かれ、その一生を筑前琵琶歌にまつた右京区釈迦堂内日本聖徳会の江頭法輪師(八一)が演奏して、会場を埋めたお年寄り達の涙をさせた。(後略) 京都新聞から

橋会神戸分会設立

神戸若宮旭霜氏(故松尾旭常女史の夫君)が提唱して昨年来企画立案中の首記が結実し二月十六日神戸市葺合区の割烹「うさぎ」に於て発会式を兼ね披露パーティーが開かれた。この会は表題の元に詩吟の研究と教授(麗霜吟社)、薩筑琵琶の研究と鑑賞(麗霜会)、橋会宗範山崎旭萃直幸琵琶教室等をなすもので、メンバーは若宮旭霜(代表)、片山旭浜、久徳旭蘭、太迫旭山、木下旭好、安住旭康、堀江旭琴、三谷旭川、佐野旭晴、沢日旭麗、松尾旭遙の十一氏。事務所神戸市兵庫区下沢通一ノ一七若宮旭霜氏方。今後の発展と活躍が大いに期待される。

一水会名古屋支部月例研究会

二月十六日折りからの雨について支部長稲

葉葵水氏宅に集合、本年初の会合として皆張り切つて一曲づつ熱演のあと春の演奏会を五月十一日泉理容会館で開催の件を議決五時半解散した。出席者小林残水、菅沼響水、神藤敏水、上梨将水、村岡涌水、水谷浩水、稲葉葵水(敬称略)。

松岡旭岡会新年懇親会

二月十六日午後一時から西宮市甲子園公民館に於て本年初集会開催、松岡旭岡総帥をはじめ伊藤旭暢、榊本旭風、中沢旭楓、田中旭昇、松岡旭文、辻本旭鳳、喜多旭修、西川旭操、宮垣旭璋、塩谷旭洲、尾山旭瑞常、富樫旭桂、山本旭泉、小林旭華、梅原旭濤、若宮旭登、中島旭穂(順不同)その他出席、各自演奏の後総会に移り昨年の決算事業報告、本年の計画などの協議に引続き懇親会に移り宴酬となるや数氏のあか抜けした隠し芸演出、なごやかなムードの内に八時半解散した。

発展途上の日本琵琶振興会

創設三年目を迎えた日本琵琶振興会(会友隆筑八十人、代表鈴木密水氏)はこの度新築の東京新宿駅前才二尾津ビル六階歌舞練場(舞台花道付冷暖房完備)三十畳敷日本座敷を毎月才四日曜日の一時から九時迄借切り薩筑各流派琵琶人の集合演奏場にするこゝになつたが之を機会に会の運営を組織化し諸種の琵琶行事に遺漏なきを期する為二月二十二日夕

京都琵琶協会月例茶話会

三月一日(土)午後一時から市内徳雲寺で開催、浅春とは云いながら両三日来京都特有の底冷えが厳しい中を伊吹、戸倉、中島旭、田中、小林、木村、美登里、水内、平井、植村の諸流派会員が嬉々として集り暖房のよく利いた座敷で例の通り日没まで各自熱演のあと夕食を摂りながら①三月二十一日から二泊三日の鳥取、広島へ演奏旅行、②六月一日協会春季演奏会、③四月十三日於靈山護国神社乃木將軍母堂慰靈顕彰除幕式に協賛献奏、④四月十四日白峯神宮祭典に協賛献奏、⑤五月十八日一水会京都支部主催の懇談会に参加の件などの協議をして八時散会した。

(予 告)

京都琵琶協会四月定例茶話会

四月六日午後一時から千本出水西入徳雲寺(電話46六九五二番)、当番幹事戸倉旭嶺、中島旭穂両氏。同好者御遠慮なく御来遊下さ。

藤波桜華演奏会

四月十一日(金)夕、東京日本橋才一証券ホール

乃木將軍母堂慰靈顕彰除幕式

四月十三日(日)午前十一時一午後五時京都靈山護国神社、京都琵琶協会から各流派派教氏